

令和7年度第1回静岡市立登呂博物館協議会会議録

- 1 日 時 令和7年7月23日（水）午前10時から午前12時まで
- 2 場 所 静岡市立登呂博物館 1階交流ホール
- 3 出席者 （協議会委員）堀切 正人会長、池田 美穂子委員、木村 貴子委員、
鈴木 健介委員、鈴木 杏佳委員、田宮 縁委員、野田 修委員、
藤田 友子委員、丸山 真史委員
（事務局）岡村館長、清水主任主事、松原主任主事、渡邊主任主事、鈴木主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 議 題 （1）令和6年度の事業報告
（2）令和7年度の事業予定
（3）日韓交流事業について
（4）議題「令和6～7年度の取組とこれからの登呂博物館」

6 協議内容

（1）令和6年度の事業報告

【事務局説明】

【報告に対する質疑】

（堀切会長）

ありがとうございます。

では皆さんからのご意見をお伺いしたいと思います。

（丸山委員）

事実確認をお願いしたいです。

入館者数は増えているけど観覧者数は減少しているというのは、一階の無料のスペースに来る人が増えているけれども、有料の展示の見学者が減少しているということでしょうか。

（事務局）

はい、あっております。

（丸山委員）

ありがとうございます。

（堀切会長）

それでは私から。入館者数、観覧者数の推移、ちょうど館報の8ページに年度ごとの表が載

っておりますけれども、昨年度の入館者数、観覧者数についてですね、年度に括って比較した場合に何か特徴的なことがあれば教えていただきたいです。特にないのであればそれはそれでよいです。

（事務局）

はい、私達も要因がはっきりしたことがわからないことがいくつかございます。

というのは、去年も今年もなんですけど、夏が非常に暑くて、暑い日の入館者が大きく減少しています。博物館だけでなく遺跡への来訪も同じです。入館者数をまず見ていただきたいです。まず令和6年のところで、令和5年より大きく減っているのが8月です。しかし、9月は逆に増えており、あとは上下ありますけども11月も少し増えています。つまり、夏の減りを他のところで回復している状況があります。観覧者のほうも見ていただくと、8月が特に大きな減少となっています。これでいくと、過年度に4500人から3700人となることがあって、まず遺跡のほうに来ていただけていないというようなことがすごく大きいなというのは感じてはいます。原因が暑さなのかどうかというところがまた把握できていないのも現状です。アンケート等いろいろとって分析はしているんですが、明確なところはわかっていません。

（堀切会長）

ありがとうございます。夏の落ち込みがあるけれども他の時期でカバーするということですね。まあコロナで落ち込んだとか、コロナ以前にも回復したというところもこの数字を見ると考えられますので、また細かい数字を探ったりしていただきながらですね、対策を考えていければよいと思います。はい、他の先生方。

（田宮委員）

教えていただきたいことが一点ございます。遺跡の方だけしか行かない人っていうのはどういう形でカウントされているのでしょうか。

（事務局）

はい。遺跡の方にしか行かない人はカウントできません。博物館に立ち寄った人は入館者という形で数え、2階スペースに上がった方、つまり入館料を払ってくれた方や減免をした方で、2階スペースの展示を見ていただいた方を観覧者と数えています。ですから、遺跡にだけ来る人については、明確な数字を私達は持っていません。

（田宮委員）

ありがとうございます。そうすると例えば登呂まつり等で外のイベントにしか来ていない人たちはカウントされてないってということですね。日常的にお散歩している人たちは別と

して、イベントなどに来た方々もカウントされていないので、何らかの形で、せめてイベントの時だけはカウントができるといいと思います。難しいかもしれませんが。もしかしたら、実際の数としてはこれより多いのではないかと思います。それともう一つ、この 8 月の落ち込みですけど、今猛暑で中々8 月が観光は大変なときということになりましたが、静岡市内の他の例えば日本平動物園とか東照宮とか、こういった形で、8 月やはり全体的に落ち込んでいるとか。すると今度は秋とか春とかそういったところで、何らかの形で力を入れていくっていうのをシフトしていくという風に考えていったらいいのかな、と思います。

（事務局）

はいありがとうございます。今の他の施設はどうですかというところですけども。8 月については、やはりいろんなところで落ちていました。ですから、突然訪れるような所は、暑いというのが原因だったということは、間違いはないかと思います。ただその静岡市自体に聞か、例えば、ここで言うと、歴史博物館とか静岡市美術館あたりの状況、ちょっとそこについては、あのデータは比較をちょっとしていませんので、それらも最終的にはデータをもらって、私達登呂博物館の入館状況と同じなのか違うのか、その辺りも含めてですね、検討をしていきたいと思っています。

（堀切会長）

他にございますか。

（池田委員）

一つごめんなさい私が聞き逃したのかもしれないですが、団体数がとても減っていますけれども、この傾向等、要因等が分かりましたら教えていただければと思います。

（事務局）

団体数が減っているところについては、学校団体の見学がコロナ中はどうしても近隣で何とか行ける場所を探してという中で来館がありましたが、コロナが明けたので従来の場所へ戻す動きの中で登呂博物館から離れてしまうという状況があるので、少し団体数としては減少していると把握しています。それ以外の原因については今、分析ができていないところです。

学校団体の見学に限って言えば、静岡市内の見学学校数はほぼ横ばいな状況です。静岡市内の小・中学校については、増減なくおよそ 6 割、6 割 5 分くらいの学校から見学をいただいているという状況です。補足させていただきました。

（堀切会長）

他ありますでしょうか。

(木村委員)

先ほど夏の入館者が他の季節と比べて、暑いのが原因だということをお聞きしたのですが、企画展に関しては資料を見させていただいた限りでは、夏のイベントの観覧者っていうのが年間を通して一番多い。夏休みも兼ねて親子で来られる方が多いかもしれないと感じました。その反面、冬の企画展の入館者、観覧者がどの年を見ても他の暖かい時期に比べてちょっと少ないのか。テーマも冬のものっていうのがちょっと難しい、他の季節のものに比べてちょっとお子さんが取り組みにくい、大人向けになっているのかと感じまして、今回「西の登呂、静岡に初上陸」っていうのが、一般の方多いですけども、他の施設、小・中学生のそんなに差がないような人数ですけど、本当に少ない人数なので、ちょっとお子さんが取り組みにくい、難しい展示なのかなと感じました。それと年間を通して親子で来られるものとか高校生にもう少し興味を持っていただけるような企画がこれからあるといいなと感じました。以上です。

(事務局)

ありがとうございます。企画展のテーマ設定のところで博物館側の考えを一つ説明させていただきますと、年 4 回ある中で全ての世代に受け取ってもらえるような展示を作るというのが理想ですし、私達も志すところがありますけれども、なかなかそこまですまくいかないう現状があります。そこで、それぞれの企画展で中心となるターゲットを設定しています。特に昨年度ですと、夏の企画展というのは、今年の春展にも対応をするところですが、学校見学が多い時期あるいは学校で歴史を学び始めた時期ということで、小学校 6 年生や静岡市内の方をメインターゲットにした地元の遺跡から歴史を紹介するというような展示をしています。令和 7 年度では、夏のものに関してはファミリーに楽しんでもらえるようなキャッチーなものから遺跡・考古学あるいは登呂遺跡といったようなより広いテーマで馴染みを持ってもらうために、動物をテーマにしています。秋というのは行楽シーズンということで、比較的来館者が安定しているというところで考古学や弥生時代に限らないテーマを設定することが多いです。昨年度は考古学の関連するものではありませんが、保存処理というような理系のような分野で、今年で言うならば、遺跡や考古学をテーマにしつつも作品、文章をテーマに、そして冬というのが一番閑散期に当たると、先ほど木村委員からご指摘いただいたように、年間来館者が比較的少ない時期になりますので、むしろ専門、遺跡好き歴史好きの方により深みを知ってもらえるような展示ということで設定をしています。昨年度は静岡ではなかなか見られない九州の遺跡ということで安国寺集落遺跡を取り上げて、今年は史跡指定あるいは史跡の名称変更も含めて、あるいは遺跡の発掘の経緯で登呂遺跡と関わりもあるというところで片山廃寺、駿河国分寺を設定しています。それぞれの企画展ごとにテーマあるいはターゲットを設定しています。もちろん、来ていただいた、お越しいただいた際には、どの方にもわかりやすく楽しんでもらえる展示を意識しながら展示

を作成していこうと思います。

（木村委員）

すみません、集客だけに目を向けず、ということでありありがとうございました。失礼いたしました。

（藤田委員）

私も冬の部分で見えていましたけれども、22年のリニューアル時から見てもやっぱり12月11月が少なく、これは博物館というところで、もしくは遺跡公園で見たところで全体的に少ないのか、もしくは登呂における何か原因があるのかっていうところを聞きたいっていうことと、あとは数を見た限り本当に半分ぐらいになっているので、逆に問われればここは伸びしろかなと思っていて、冬の魅力を打ち出していくような、何かそういった館としての考えがあるのかっていうのをお聞きしたいなというふうに思いました。

（事務局）

はい。ありがとうございます。今のところはとてもこれ、以前として、博物館等々で、もうずっと出ている話です。1月2月に減少する傾向はどこの博物館も同じです。ですから、今こちら委員におっしゃっていただいたように、間違いなく伸びしろがあります。ただ、伸びしろということになると、どういうことをするとそこに当てはまるのかな、というところが非常に難しいです。今申し上げましたように、博物館・美術館などはほとんどその時期何もしない。何か、普通はしないことをすることが一つ大事なのかもしれません。でも、博物館美術館が博物館業務以外の人が集まるイベントを一生懸命やるっていうのは、本来的な設置目的ではないですし、博物館職員が得意じゃないことでもあるので、違うアプローチの仕方をしなくちゃいけない。でもそこは、否定するわけじゃなくて、面白い、あるいは深みのある展示をしているかもしれないけど、見てもらえてないっていう現実には博物館の職員、きちんと考えなくちゃいけないと思いますね。ですから、じゃあ改善する何かを、あるいは、こういうところで、あるやり方をしたらどうかというようなことをやっていくというのは当然必要。私達も昨年からいろいろ試行錯誤を行っています。これは例えば、夜間開館なんかを始めたい。先ほどもちょっと説明しました、親子星空観察会という、星が綺麗なら逆に増えるので試してみるのはいくらも色々やって成果というか結果となっていますけども、そのときに、博物館の中を開けて、企画展まで行ってくれるかっていうと、博物館までは来ているけど、そこより先は、来てくれた方が、一緒になるということではなくて、やっぱりそこにさらに何かを加えないと、そこに行かないというようなこともだんだんわかってきました。去年の夜間開館やったのに1階だけはある程度入ったけど、2階には誰も入ってくれなかったとかね、逆にいろいろ試行をやっていく中でわかってきたので、逆にそうしたところについて、こんなのは、というようなのを皆さん方から、また教えていただけたらそれも試して

みようかなというような感じでおります。よろしいでしょうか。

（藤田委員）

ありがとうございます。今外で開催中の企画を見てきたのですが、すごくキャッチーでいいなという風に思います。こういったようなことの理由とか、設置とかそういったことも一つあるかなっていうふうに今、ジャストアイデアですけども思いました。また何か提案がありましたら、お声がけさせていただきたいなと思います。ありがとうございました。

（田宮委員）

今松原さんに4回の企画展のコンセプト、ターゲットをお聞きしました。そのところがしっかりと考えられて非常にいいなと私は思ったところでございます。あとやはり博物館なので私は深いことは知らないです、専門じゃないので、でもアカデミックなのをきちんと残しておかないと、博物館としての役割が果たせないのでは入館者のことだけではなく、普通のことだけではないっていうのを、きちんと館の方で持っていていただけるっていうかな、そういった理念とかそういったものをきちんと持っていていただけることがまず大切なかな、と感じたところです。ですから何でもかんでもね、年中キャッチーなものっていうのも、また逆に言うと面白くないのですよね、あのキャッチーなものがあるから、季節によってそのときは見てみようっていうふうになるのが一般の人だと思います。であと大学生と、今年度、フィールドワークをさせていただいてご案内させていただきましたけど、それは生涯学習演習という授業の中で教育学部の学生ではありますが、比較的生涯学習に興味関心がある学生です。ただおそらく展示しているものは、先ほど小学校6年生をメインターゲットとしたということがありましたが、その入り口はそこからでないと大学生も難しいです。でおそらく考古学とかを専門としている人はもう少し、例えば高校生にしてもすごく興味関心が高い人はもう一歩っていうところあるのかもしれないですけどもしかしたらそういう方は冬に来る、で、夏とかあの春とかあの秋の部分では、多分今のぐらいの展示の仕方っていうのが大学生の入り口としては非常に良かった。あとその入り口が開かれて初めて次のところだと思うので、そのところを企画展できちんと押さえておいていただけるっていうのがいいかなと。で今日も2階見せていただきました、20分弱で見学できる。そうすると、そのぐらいのところだと、興味が湧くだろうかな。要は、愛着を持てるってそういうところで、じゃあ次のときにはもう少し深まったものをというふうになっていくようなこの春、夏、特に夏のあたりかなと思っております。ぜひ入館者数は増えてほしいです。でもそれだけにとらわれちゃうと目的がおろそかになってしまいますので、そこら辺のバランスをこれから捉えていただけるとありがたいかなと思いました。以上です。

（堀切会長）

はい、ありがとうございます。では続きましてですね、今回いただいた令和6年度7年度、

これからの博物館について、事務局から説明をいただきます。

(2) 令和7年度の事業予定

【事務局説明】

(3) 日韓交流事業について

【事務局説明】

(4) 議題「令和6～7年度取組とこれからの登呂博物館」

【(2)・(3)・(4)への質疑】

(堀切会長)

はい、ありがとうございます。協議会のこれまでの意見を踏まえて色々取り組んでいただいているのですが、まず皆様からのご意見をいただきたいと思いますが、ちょっと多岐に渡りますので、まず学校との連携の部分についてですね、鈴木健介委員、よろしいでしょうか。

(鈴木健介委員)

南部小学校です。ありがとうございました。いろいろお世話になっています。去年の出前講座から、子供が感激してここで見学した様子から、私もそれは職員にすすめましたが、そこから発展して、田宮先生のね、アイデアをいただいて、博物館ジャックのようなことをさせていただきました。やはりそこには松原さんと渡邊さんの2人の学芸員の方の、これもこの博物館の財産だと思うのですが、すごい熱意とか思いがあってそれを子供たちが感じて、学芸員という仕事にも興味を持っていろいろ発展していったなと強く感じているものですから、そこがありがたかったことだなあと感じています。登呂遺跡、登呂博物館がすごいのだぞ、地元にはこんなものがあるぞというような「しずおか学」としての狙いも達成できたし、自分たちで調べたことを他の人に発信するというインプット、アウトプットで、社会科としての授業も十分だったなと思いました。で、規模的にはやっぱり、今回のような単件であれば、時間であれば無理はないのかなって思っていて来年もこのまますすめたいなと思っているのですが。ちょっと余談ですけど今年、2階で発表した子供たちのところに保護者が来てくれたのですが、2階はお金がかかるってことをアナウンスしてなかったものですから、事前に周知したり、来年はみんな下でやったり、ここに来てもらった人が行けばいいのかな、とか。今回ここで経験した子が、お母さん行ってみようよとか。大きくなってここでやったよとか、そういうところに発展していけば。時間はまだいっぱいかかるとは思いますけど、そんなきっかけとして、なればいいなと思っています。どうもありがとうございました。

(事務局)

はい、ありがとうございます。2 階が有料、その部分は、私たちの方としては博物館ジャックというような形であれば、やはり 2 階でやってもらいたいの、事前にご家族に来てもらえるということであれば、そこは事業の一環として、減免の扱いをできたかもしれないのですが、今回そういったところを私達も十分考えられていなくて。来館者が来てくればそこで説明できるな、と安直に考えていました。やり方をちょっと考えても良かったかな、と思っています。またそちらもご相談ください。

(堀切会長)

同じ学校関連ということで、野田委員にも。

(野田委員)

はい。どうもありがとうございます。自分任在が南部小学校で、3 年間だったんですがコロナでほぼほぼ活動ができなくて、3 年目のとき、じゃ来年やりましょうねと言った僕が出ちゃったんですけども、色々やってくれていて嬉しく思います。いくつか考えたんですけどね。とまずさっきの教員とのタイアップですけども、今年すごく静教研が静岡県教育研究会だったかな、静教研でもありまして小学校中学校の社会科部が今年夏、夏季大会を城内中学校を会場に歴博と共催という形で実施をします。分科会の 1 会場が歴博、まあ歴史の分野ですけども、前館長の方が最後講演するのかな、で歴博の方でその日限りのフリーパスを最後のほうで配って県内結構島田の方から、磐田の方から来ますので、帰りぜひ歴博の方寄って行ってくださいねって。どういうふうに計上するのかわかりませんがそういうふうな形もできるかなと思いました。ちょっと僕は個人的な話と社会科教員の話になっちゃうんですけど、自分が東京の科学博物館が好きなんです。子供の頃すごく楽しかったなあという記憶があって、でも高校大学はほぼほぼいかなかったんですね。ただ、科学博物館は科学っていう、間口がすごく広くて、物理・生物・科学・地学、あらゆるものが間口になっていてさらに、そこから色々深堀りもできるというところがすごく面白いなって。うちも子供が小さいときによく連れていったのですね。科学なので、何かダイオウイカのときもあればチョコレートときもあったり、人間の進化の歴史のことだったりとすごく楽しかったなっていう記憶があります。でも子供が大きくなっちゃったら行ってないんですけども、多分その辺のそういう感じだった。科学博物館でさえそんな感じなので、そういう子供の興味を取り込むかというところがまず一つかということと科学博物館は間口がすごく広いというところがすごく強みだと思んですけども。じゃあ登呂博物館の強みって何なんだろうなっていうのをいつも考えます。あるとするならば先ほどの歴史の入り口、小学校 6 年生の歴史を始めて学ぶところの入り口に必ずこの弥生時代はくるので、そこを全部の学校に小学校 6 年生から通過する地点を握ってるってところが一つの強みかなというふうに思います。ただ、最近授業時数が非常に少ないんです。ギリギリで社会科見学もままならな

いだろうなと思います、小学校。それからバスが取れません、まったく取れません。取れたとしても高いです。なので、例えば藤枝だとかからバスで来るっていうのは、本当に二の足を踏んでいると思います。どんどん値上がりしていて、しかも、この辺だと船が入ったときに観光会社が全部かささらっちゃうので、空いているバスとか取れる人もいないという現状なので。できればその出前講座でやっていったほうがいいかなというふうに思います。それからここが社会教育の話なんだけど、縄文弥生、多分この辺は登呂博物館のいいところだと思うんですね。市内にもいろんな博物館があって、久能山の方だったら、徳川家康を中心としたもの、それは歴史博物館も同じ。歴博は多分、室町中期以降から明治初期くらいまでを魅力としてと思うんですけどね。登呂だと縄文弥生、ちょうどやって途切れちゃうんですよ、どうしても。実はこの辺の古墳時代飛鳥時代奈良時代平安時代鎌倉時代ぐらいが薄いんですよね。薄いです。どこも扱ってない。もしやるとしたら先ほど片山廃寺のことがあったんだけど、その辺でいろんな博物館といろんな連続性が持たせられるといいかなと思っています。例えば古墳時代とかその辺あんまりないように思えるんだけど結構あるはずですよ。三池平古墳もあれば谷津山だってそうですし、古墳時代はある程度まかなえる。片山廃寺であれば奈良時代から平安時代、というようなところで、歴史の連続性をなんとかいろんな博物館でもたせられるといいかなと、社会科教育としては、以上です。

(事務局)

ありがとうございます。たくさんご意見いただきましてありがとうございます。静教研の話が出たかと思うんですけども、歴史博物館と登呂博物館の違いの一つとして、各職員の中に教員経験者教員OBがいないというところで、歴史博物館の方がいらっしゃるのでカリキュラム作りから一緒にできる。城内中学校のことについては、歴史博物館に在籍している教職員OBと城内中学校の教員がカリキュラムを作ったっていう事例というふうに聞いております。登呂博物館はどうしてもそこは補えない部分ですので、逆に言えば、登呂博物館は歴史博物館に比べてそもそも母数の多い学校団体が訪れるということで、認知度あるいは注目度、あるいはもうリピーターになっている数が多いですので、そこにいかに様々な例えばたくさんの先生方と交流できるかというところが、登呂博物館の強みだというふうに感じております。校長会で話をさせていただくときにちょっとお配りさせていただいた資料なんですけども、昨年度ですね、市内81校のうち53校が来館していて、残り28校は来館していない。その中で来館していない学校というと案外遠いところではなくて近場学校がないというところがあったものですから、そのあたりについては、様々なアプローチできたらなというふうに考えているところであります。直接問題関係というところはまだ実践できていませんでしたのでぜひやってみたいと思っております。もう一つ、それこそ今チラシを出しているところであるんですけども、チラシの中でも、ちょうど私も特に同じことを考えておりまして、先生方にどうしても伝えなかったということとしては、子供たちが歴史を学び始める入り口となる弥生時代・登呂遺跡、それについて先生方が実際に体験していただ

ければなというところがこの教員のための博物館の日の目的の一つです。現在これもう一つ7月末までなので、そういう期待を含めて応募を待っているところではあるんですけども、現在の申し込み状況としては、市内の学校の先生とかからあまり参加申し込みがない状況であります。ただ一方で、市外あるいは遠いところだと県外の先生だとか、あるいは県内でも高校の社会科の先生というところに注目をいただいております。登呂博物館の市内の学校については、そもそも取り組みを始めているところですので、それ以外の先生方はアポイントを、学校の年次の違いですとかエリアの違う先生方からもご意見をいただければというところで、今年度8月のネットワークを変えたいというふうに思っています。以上です。

(堀切会長)

ありがとうございます。他にありますでしょうか。

(鈴木杏佳委員)

出前講座、内容のブラッシュアップというか、本当に皆さんのご尽力が伺えたなと思います。その中で出前講座に行った学校の生徒さんが個人的に来てもらえる仕組みを作ったほうがいいかなと思っていて。ちょっと予算の関係もあるんで難しいかもしれないんですけど、回数券をそもそも多分販売されていると思うので、例えば出前講座専用というか、特別な回数チケットというか、例えばスタンプラリーみたいな方が子供たちは集めるのが多分楽しいと思うので、そういうのを作って、この全部のシーズン四つのシーズンにきてスタンプラリーを貯めたら、トロベアのステッカーがもらえるみたいなのを作って子供だけで来るのは、多分遠方の方だと難しいのでそれをトリガーにして、お母さんお父さんたちも来てもらってその入場券の料金をもらえるような行動っていうか、仕組みがあったらいいのかなと思っているので。逆に出前講座、どういう資料を子供たちに渡してるかお伺いしたいなと思います。そこに何かスタンプカードつけれたらいいのかなと思いました。

(事務局)

ありがとうございます。ただいまですね、出前講座で特に資料はありません。むしろ本物の土器を触ってもらおうと思って机の上何も用意しないねっていう形で授業を進めてます。むしろその気にせず本物に触ってもらいたいなというところであつたんですけども、それは講座の中で使うっていうだけなのでそれを実際にここに見に来てねっていう導線といいますか、アプローチがなかったなというのは今お話を聞きながらもったいないことをしていたなというところがあります。それこそ先ほどお話をさせていただいた、今あるイベントをストーリー立ててやるなんていうところでも、一日の中でできるイベントテーマというのは限られていますので回数来ていただくことでそれを来ていただくためにストーリーを繋げていくっていうのを一つの方法だなと感じましたので、ぜひ取り組むように準備していきま

す。ありがとうございます。

（田宮委員）

すいません。今鈴木委員のお話すごく本当に理にかなっているって思っていてやはり動物園なんかは、動物園に学校で来た後保護者と一緒に必ず来るんですよ。それで保護者に動物のことを話をするっていう、幼児もそんな感じでやっています。ですから一つはやっぱそういうふうな仕組みをうまく作っていく、今のスタンプじゃないんですけど、別にそれは終わった後で来てねというだけでもいいですよ。学生がお邪魔して、最初のときは有料で入れさせてもらったんですよ、私その減免を知らなくて。その後もう1回、何回かやっぱり来るのは何回も聞いて調べたいんですよ、その時に年パスがあると、あの安く設定していただけるといいかなという、そのこのストーリー性のある体験イベントのときにも、その年パスが使えるわけで、もしストーリー性のある、これすごいいいと思っていて、その登呂博物館のやっぱあの歴史的な時間っていうのは、生活っていう意味では、実は現代の生活とすごく繋がっていて、学生などはそこをのぞいてくださってということを指導はしていると言ったんですけど、おそらくいろいろな音楽とか防災とか、いろいろなところに繋がってくるんですね、食だとか。そこをのぞいてくださっていかないといいかなというふうに思いました。ぜひ何か年パスだとかうまく人を取り込む仕組みを作ってもらえるといいかなと思います。ありがとうございます。

（事務局）

ありがとうございます。なかなかそういうところに思い切っていない。やることだけ、とりあえず今やっているだけでそれを繋げてないっていうところを非常に強く感じました。子供、小学生はもともと無料なので、いいやっていう風な感じを私持ってしまう。そうじゃない。今のお話は、そういうことじゃなくて、何かその集めることをきっかけに来るっていうのを習慣づけたらなんかするっていう、そういう工夫の仕方はありますよって非常に私の方は確かにそういうことを今まであまりを一生懸命考えていなかったな、というところを感じました。とてもありがたい。それから明確にまだそこまではできていないんですけど、登呂遺跡の喜ばれるグッズを、やっぱりもう1回作ろうと。ですから言っていたいただいたその景品として、喜ばれて、私達からすると高くなくても喜ばれる独特なものとか、そうしたものをやっぱり開発していかないと、さっきの仕組みとかシステムというところになかないかな。そこにとにかく何か加わると、さらにというところがあるっていうことを言っていたいただいた。そこは頑張っていきたいと思います。

（池田委員）

この教職員の方に出前してらっしゃるっていうのは、オープンではなく、口コミというのかモデル的な授業で考えればよいでしょうか。

(事務局)

出前講座はくくりとしては市政出前講座という形になります。そしてもう一つ市政出前講座の一覧の中に公開しているものと、あと放課後子供教室という教育委員会の方で実施しているものと、一覧に掲載をしているという形になるんですけども、その市政出前講座を市役所の中のいろんな部局がたくさんそれぞれ軒を連ねていて、歴史文化課の中でもそれぞれ係があったりしてたくさん魅力があるので、その一覧の中で埋もれてしまっているという状況です。口コミだとかあるいはそもそも私たちとしては学校向けにあるいは公民館の講座で受けていただきたいのでそのあたりはリピーターとか口コミというところがとても大きい形になっています。

(池田委員)

ありがとうございます。

その中でとてもいい事業なのだなと思っていて、先ほど先生もおっしゃったように私の接している先生も、バスとかが本当に大変で、行きたいけど総合的な学習でも苦勞しているような話もよく聞いている中で、多分長く続けていただく必要がある事業なのかなと思っているんですけど、なんでちょっとこちらがお願いできたらなんですが、やっぱどうしても属人的になる部分ってあるのかな、多分今松原さんとか渡邊さんとかがいらっしゃったからできていた部分もあるのですが、やっぱ職員さんって、数年したらやっぱ変わっていつてしまうっていうことを踏まえて、できたら何でしょう、パッケージとしてちゃんと形にするとか人材を育成すると先ほどおっしゃっていた教員のOBの方を巻き込んで作っていくような形とかをぜひ作っていただけたらいいのかなと思います。

(事務局)

はいありがとうございます。まさにそのパッケージ化というところは課題としていまして、これ昨年度の資料ですけども、まずその事前事後の出前講座あるいは更に深く深掘りをしていくというところで、あるいは私達が行かなくても道具だけをお貸しするとかで、まだ実施できてないですけども、一括でオンラインになるとかっていうところの方法と選択というところを博物館の方で準備をしておいて、職員が変わっても、今出前講座の「講座」の部分に関しては、どの職員が行ってもできるような話は整えてありますので、先生方からも選びやすい、そして博物館でも選んでもらったらすぐに対応できる、という形の中で需要と供給を提供しようときちんとできるような形で準備を進めていますのでその点は引き続き進めていこうと思います。

(池田委員)

ありがとうございます。

(堀切会長)

ありがとうございます。それでは最後、丸山委員に。

(丸山委員)

一つちょっと今話出てなかったところで最後のデジタルコンテンツの導入というところの補助金を博物館法の改正に伴って、最近やっぱりリニューアルする所とかいろいろ見ていると、フォローとかいろいろ見るとかなり見た目はいいけど、やっぱり学芸員の話の聞くと、メンテナンスが大変だとか、これすぐに使えなくなったが、またお金を払ってその業者にしか頼めないとかっていうようなちょっと仕組みがあるというところで、おそらくその辺も考慮されていると思いますけれどもちょっと設計として補助金をもらうにはやっぱり魅力的な多分提案をしないともらえないこともあるだろうと思いますけど。逆に、その先に失敗したくなってならないようなところもちょっと考えといていただけるといいな感じました。

(事務局)

はいありがとうございます。まさにその常設展示の方がそういう形になっていて、作った状態のままになっている、サポートが切れてしまったバージョンについては更新ができないというようなところが実情としてありますので、今後整備をしていくときには、特に気を付けていくところ。で、デジタルアーカイブについては、なかなか活用できていなかったんですけども、いわゆる公開するソフトとかプランの方については、既にあるものですね。ただそれを十分に活用できていないということと、今回アーカイブ化しようとする対象として出土品ではなくて、登呂遺跡の昭和の調査ですね、ときに調査に参加した方の記録、日誌とか、そういったものについてアーカイブ化しようとしています。要は、登呂遺跡の遺跡としての価値だけでなくて学史の部分、登呂遺跡発掘調査の日本考古学の歴史が変わるところをさらに登呂遺跡のもう一つの価値としてオープンにできるようにということの準備段階として、今回はデジタルアーカイブをしようというような段階となっております。

(堀切会長)

そろそろ時間となりますが、もしもう一言申したいという方がいらっしゃいましたら。よろしいでしょうか。では皆様ご意見ありがとうございました。これまでの取り組みが整理され活発に議論できたのではないかなと思います。それから、皆様からいただいたご意見については今後の博物館の取組に活かさせていただきますようお願いいたします。これで議事を終了し、司会進行を事務局へお返しします。

【閉会】